

主要産地における平成27年産水稻の収穫量及び作柄概況等について 第3報（10月30日現在）

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成27年11月2日）

全 国 道 府 県	収穫量（主食用）					作況		品質概況等		参考		
	予想収穫量 (27年10月15日 現在)①	前年産収穫量 (26年10月15 日現在)②	前年産 収穫量 との比較 (①-②)	生産数量目標 との比較 (①-③)	自主的取組参 考値との比較 (①-④)	作況指数 (27年10月15日 現在)	前年産 (26年10月15日 現在) との比較	27年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (27年9月末)	26年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (26年9月末)	生産数量目標		平成27年産 自主的取組 参考値 ④
										平成27年産 ③	前年産 との比較	
	t	t	t	t	t			%	%	t	t	t
全国	7,444,000	7,885,000	▲ 441,000	▲ 66,000	54,000	100	▲ 1	81.2	79.2	7,510,000	▲ 140,000	7,390,000
北海道	559,600	597,200	▲ 37,600	12,270	21,020	104	▲ 3	94.4	84.0	547,330	▲ 6,810	538,580
青森	229,800	257,400	▲ 27,600	▲ 12,660	▲ 8,780	105	1	93.9	88.0	242,460	▲ 4,540	238,580
岩手	269,400	287,700	▲ 18,300	▲ 1,810	2,520	105	0	96.4	91.3	271,210	▲ 4,330	266,880
宮城	348,400	379,600	▲ 31,200	▲ 220	5,350	103	▲ 2	81.1	92.8	348,620	▲ 14,010	343,050
秋田	419,400	453,000	▲ 33,600	1,860	8,540	103	▲ 1	93.1	93.7	417,540	▲ 15,500	410,860
山形	354,300	380,700	▲ 26,400	9,800	15,310	103	▲ 2	96.4	94.8	344,500	▲ 14,070	338,990
福島	342,600	350,600	▲ 8,000	3,050	8,470	101	▲ 3	93.8	93.0	339,550	▲ 8,870	334,130
茨城	345,400	396,200	▲ 50,800	8,030	13,420	96	▲ 9	86.5	93.7	337,370	▲ 4,180	331,980
栃木	287,300	313,700	▲ 26,400	▲ 11,390	▲ 6,620	98	▲ 2	90.6	96.7	298,690	▲ 10,640	293,920
埼玉	152,200	169,800	▲ 17,600	930	3,350	97	▲ 5	32.8	53.9	151,270	▲ 1,410	148,850
千葉	297,500	325,300	▲ 27,800	51,010	54,950	101	▲ 3	89.1	94.9	246,490	▲ 2,790	242,550
新潟	539,600	576,000	▲ 36,400	18,310	26,640	97	▲ 4	82.2	73.3	521,290	▲ 14,350	512,960
富山	191,200	193,100	▲ 1,900	5,550	8,520	103	2	90.8	87.0	185,650	▲ 6,690	182,680
石川	123,200	123,400	▲ 200	▲ 430	1,550	101	3	86.7	69.4	123,630	▲ 2,770	121,650
福井	123,800	126,000	▲ 2,200	▲ 1,660	340	99	1	86.6	85.2	125,460	▲ 2,670	123,460
長野	194,500	195,800	▲ 1,300	500	3,600	97	1	98.5	96.9	194,000	▲ 2,640	190,900
滋賀	158,500	157,100	1,400	▲ 1,950	620	100	3	73.7	47.3	160,450	▲ 2,930	157,880
兵庫	178,900	177,800	1,100	▲ 1,540	1,340	99	2	68.8	60.3	180,440	▲ 1,490	177,560
岡山	151,600	153,300	▲ 1,700	▲ 6,950	▲ 4,420	98	4	73.4	73.0	158,550	▲ 1,640	156,020
広島	121,700	123,300	▲ 1,600	▲ 8,270	▲ 6,190	96	1	85.9	80.4	129,970	▲ 160	127,890
山口	100,700	103,800	▲ 3,100	▲ 8,060	▲ 6,320	97	1	76.7	70.2	108,760	▲ 2,060	107,020
愛媛	71,200	73,000	▲ 1,800	▲ 2,720	▲ 1,540	98	0	42.0	42.5	73,920	▲ 570	72,740
高知	52,800	55,600	▲ 2,800	2,730	3,530	96	1	17.5	20.9	50,070	20	49,270
福岡	172,300	176,000	▲ 3,700	▲ 10,170	▲ 7,250	95	▲ 1	17.8	29.0	182,470	▲ 1,910	179,550
熊本	171,500	180,900	▲ 9,400	▲ 17,810	▲ 14,790	97	0	35.4	43.5	189,310	▲ 610	186,290
宮崎	74,700	84,700	▲ 10,000	▲ 18,900	▲ 17,400	93	▲ 5	64.5	69.2	93,600	▲ 870	92,100
鹿児島	95,700	102,600	▲ 6,900	▲ 15,370	▲ 13,590	95	▲ 1	44.5	37.2	111,070	▲ 470	109,290

注：更新箇所について、前回より増加した箇所は二重下線で、減少した箇所は下線で表した。

	品質概況等 自治体等公表資料（公表資料の抜粋）	備考
道府県	自治体等公表資料（公表資料の抜粋）	平成27年度産米の作柄・品質等の向上に関する取組等（栽培技術指導方針） （農林水産省公表資料の抜粋）
北海道	<p>・10月15日現在の作柄は、6月下旬から7月上旬にかけて低温で経過したことにより、1種当たりもみ数が「やや少ない」、全もみ数が「やや少ない」となったものの、8月上旬から中旬にかけておおむね高温で経過したことにより開花・受粉の状況が良好であったこと、9月中旬から下旬にかけて気温が平年よりも高く降雨は平年よりも多く経過したことにより、粒の肥大が進んだことなどから登熟は「良」が見込まれ、10a当たり予想収量は559kg（前年に比べ18kg減少）が見込まれる。 （北海道農政事務所 10月30日付）</p> <p>（全道）収穫作業は、一部の地域を除き終了した（遅7日）。（北海道農政部 10月15日現在） （空知）断続的な降雨により収穫作業は遅れた。品質は平年並からやや良（遅7日）。（空知総合振興局 10月15日現在） （石狩）収穫作業はやや遅れて終了した（遅3日）。（石狩振興局 10月15日現在） （後志）天候不順により収穫作業は遅れたが、現在はほぼ終了している。品質は良好（遅4日）。（後志総合振興局 10月15日現在） （胆振）収穫作業は、収穫最盛期後の断続的な降雨の影響により平年より遅れて終了した（遅7日）。（胆振総合振興局 10月15日現在） （日高）収穫は平年並に終了した（遅2日）。（日高振興局 10月15日現在） （渡島）収穫作業は平年並で概ね終了。（渡島総合振興局 10月15日現在） （檜山）収穫作業は平年並に終了した（早1日）。（檜山振興局 10月15日現在） （上川）収穫作業は、平年より遅れて終了した（遅10日）。（上川総合振興局 10月15日現在） （留萌）収穫は降雨の合間に行われ、収穫は平年より7日遅かった。（留萌振興局 10月15日現在） （オホーツク）収穫は遅れて終了した（遅12日）。（オホーツク総合振興局 10月15日現在）</p>	<p>○収量・品質の安定に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗管理の徹底 ・防風対策等の栽培環境整備 ・適正施肥
青森	<p>・10月15日現在の作柄は、全もみ数が「平年並み」となり、出穂期の8月上旬から中旬の気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬以降も天候に恵まれ登熟が「やや良」となったことから、10a当たり予想収量は616kgで、前年産に比べて6kgの増加が見込まれる。 （東北農政局 10月30日付）</p> <p>・10月20日現在の稲刈進捗状況は、県全体で100%となった。稲刈終わりは10月13日で平年より1日早かった。（青森県 10月21日付）</p>	<p>○良食味・高品質米の安定生産（気象に左右されない米づくり）に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適地・適品種の作付誘導 ・健苗育成と適期移植 ・畦畔の整備、補強と適正な水管理 ・土作りの推進と適正な施肥
岩手	<p>・10月15日現在の作柄は、全もみ数が「平年並み」となり、出穂期となる8月上旬の気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬以降も天候に恵まれ登熟が「やや良」となったことから、10a当たり予想収量は560kgが見込まれる。前年産に比べると2kgの減少が見込まれる。 （東北農政局 10月30日付）</p> <p>・10月15日現在、県全体の水稻刈取割合は92%（平年同期94%）であり、水稻の刈取は終期を過ぎたと推察される。地帯別には、北上川上流が83%、北上川下流が95%、東部が98%、北部が87%である。 （中央農業改良普及センター県普及グループ 10月19日付）</p>	<p>○良質・良食味米の安定生産及び低温障害回避のため、適期移植の指導が行われている。</p> <p>○有機物による土作りや追肥の適正実施の指導が行われている。</p>
宮城	<p>・10月15日現在の作柄は、田植期以降8月上旬まで天候に恵まれたことから全もみ数が「やや多い」となったものの、8月中旬から9月上旬の気温・日照時間が平年を下回って経過し登熟が「やや不良」となったことから、10a当たり予想収量は547kgで、前年産に比べて12kgの減少が見込まれる。 （東北農政局 10月30日付）</p> <p>・10月15日現在における県内水稻の刈取面積は62,946haであり、県全体の97.3%で刈り取りが終了している。本年産の県全体における刈取終期は10月10日であり、平年並みであった。 （宮城県 10月16日付）</p> <p>＜平成27年9月関東・東北豪雨による被害状況等（第14報）（10月16日正午現在）＞ 仙台市等（27市町）の水稻を含む農作物の被害面積は9,066ha、被害額は1,555,065千円となっている。 （宮城県 10月16日付）</p>	<p>○良質・良食味米の安定生産（気象変動に強い米づくり）に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作型の改善（出穂期を遅らせる作型） ・土づくりの推進と適正な施肥 ・適正な水管理と病害虫防除等
秋田	<p>・10月15日現在の作柄は、全もみ数が「平年並み」となり、出穂期となる8月上旬の気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬以降も天候に恵まれ登熟が「やや良」となったことから、10a当たり予想収量は589kgが見込まれる。前年産に比べると7kgの減少が見込まれる。 （東北農政局 10月30日付）</p> <p>（秋田）10月20日現在の刈り取り作業の進捗は99.4%（平年99.8%）だった。（10月23日付） （鹿角）10月15日時点での刈り取り作業の進捗状況は76.8%（平年92.2%）。断続的な降雨の影響で平年よりも遅くなっている。（10月16日付） （平賀）刈取作業の終期は、平年より1日早い10月10日となった。（10月16日付） （北秋田）10月15日現在の刈取作業進捗は、97.5%（平年98.3%）。終期は、天候が悪かったため、平年より3日遅い10月14日となった。（10月16日付） （山本）刈り取り作業は10月11日に終期を迎えた（平年10月12日）。10月15日現在、刈り取り作業の進捗率は98.2%（平年97.3%）となった。（10月16日付）</p>	<p>○良質・良食味米の生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくりの推進と栽培密度の適正化 ・適正な水管理と雑草防除の徹底 ・適正な施肥管理と適期刈取り等
山形	<p>・10月15日現在の作柄は、田植期以降8月上旬まで天候に恵まれたことから全もみ数が「やや多い」となったものの、8月中旬から9月上旬の気温・日照時間が平年を下回って経過し登熟が「平年並み」となったことから、10a当たり予想収量は614kgとなり、前年産に比べて9kgの減少が見込まれる。 （東北農政局 10月30日付）</p>	<p>○気象変動に対応した品質向上技術（水管理、適期移植）の指導</p> <p>○土壌診断に基づくリン酸、カリ等の適量施肥等の指導が行われている。</p>

	品質概況等	備考
福島	<p>・10月15日現在の作柄は、田植期以降8月上旬まで天候に恵まれ全もみ数が「やや多い」となったものの、8月中旬から9月上旬の気温・日照時間が平年を下回って経過し登熟が「やや不良」となったことから、10a 当たり予想収量は55kgで、前年産に比べて3kgの減少が見込まれる。 (東北農政局 10月30日付)</p> <p>・出穂期は平年に比べ早まったものの、8月中旬から9月上旬にかけての低温・日照不足により、登熟日数は平年に比べ長くなっている。成熟期は、農業総合センター本部(郡山)の5月1日補え「ひとめぼれ」で平年より早まったが、それ以外は平年より遅くなった。県内の刈取作業は、地域によって異なるが始期が平年並から遅れており、9月30日現在の進捗率は18%で昨年同期(24%)より遅れている(県農林事務所調べ)。 (福島県 10月7日付)</p>	<p>○土壌診断に基づくカリ施用、堆肥の施用による土づくり等の指導が行われている。</p>
茨城	<p>・10月15日現在の作柄は、全もみ数は、田植期以降、高温・多照で推移し穂数及び1種当たりもみ数がやや多かったことから「やや多い」となった。登熟は、7月上旬の低温による稔実の低下や8月上旬の高温と中旬以降の日照不足や降雨による粒の充実の抑制から「やや不良」が見込まれる。台風第18号の影響から、西部及び南部地帯では冠水、浸水、倒伏等の被害がみられた。この結果、茨城県の10a 当たり予想収量は505kgで、前年産に比べ43kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別の10a 当たり予想収量は、北部で528kg(前年産に比べ19kg減少)、鹿行で525kg(同24kg減少)、南部で526kg(同30kg減少)、西部で451kg(同89kg減少)が見込まれる。なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された茨城県の作況指数は96が見込まれ、作柄表示地帯別の作況指数は、北部で102、鹿行及び南部で100、西部で86が見込まれる。 (関東農政局 10月30日付)</p> <p><平成27年9月関東・東北豪雨による被害状況について(第6報)(10月15日現在)> 水稻の被害状況は、常総市・埴町等(21市町)で、冠水、浸水、倒伏による被害面積は3,652.1ha、推計被害額は2,696,913千円となっている。 (茨城県 10月16日付)</p> <p>・玄米の外観は、光沢は平年並み程度であるが、充実度・粒ぞろいは平年よりやや劣る。白未熟粒の混入は、やや見られる。その他未熟粒の混入は収穫時期の差によりバラツキがみられる。胴割粒の混入は、全体に少ない。被害粒の混入は全体に少ないが、雨の影響で刈遅れたものには発芽粒や芽くされ粒の散見されるものもある。被害粒の混入は刈遅れているものの方がやや多い傾向がある。着色粒は全体的に平年と同じか平年よりやや多い。 (精米工 10月13日付)</p>	<p>○良質米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適期移植 ・適期・適切な中干しによる茎数管理 ・適期収穫と適正乾燥・調整
栃木	<p>・10月15日現在の作柄は、全もみ数は、穂数がやや多かったことから「やや多い」となった。登熟は、出穂期以降、高温・多照で推移していたものの、全もみ数がやや多いことや、8月中旬以降の低温・日照不足の影響により抑制されたことから「やや不良」が見込まれる。台風第18号の影響から、県内全域で冠水、浸水、倒伏等の被害がみられた。この結果、栃木県の10a 当たり予想収量は531kgで、前年産に比べ7kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別の10a 当たり予想収量は、北部で559kg(前年産に比べ3kg減少)、中部で526kg(同11kg減少)、南部で488kg(同10kg減少)が見込まれる。なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された栃木県の作況指数は98が見込まれ、作柄表示地帯別の作況指数は、北部で99、中部及び南部とも197が見込まれる。 (関東農政局 10月30日付)</p> <p><台風18号による水稻の被害状況> 栃木市等(17市町)の被害面積は3,166.6ha、被害金額は907,766千円。 (栃木県 9月18日付)</p>	<p>○品質や食味の向上に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水管理の徹底 ・生育診断に基づく適正な肥培管理 ・適期収穫
埼玉	<p>・10月15日現在の作柄は、全もみ数は、田植期以降、高温・多照で推移したことから穂数がやや多くなり、1種当たりもみ数が平年並みとなったことから「やや多い」となった。登熟は、8月中旬以降の低温・日照不足の影響により粒の肥大・充実が抑制されたことから「やや不良」が見込まれる。この結果、埼玉県の10a 当たり予想収量は480kgで、前年産に比べ21kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別の10a 当たり予想収量は、東部で491kg(前年産に比べ23kg減少)、西部で460kg(同17kg減少)が見込まれる。なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された埼玉県の作況指数は97が見込まれ、作柄表示地帯別の作況指数は、東部及び西部とも197が見込まれる。 (関東農政局 10月30日付)</p>	<p>○品質・食味向上に向け、栽培管理技術の徹底及び栽培基準や栽培指針に準じた肥培管理の指導が行われている。</p> <p>○夏場の高温対策として、水管理の徹底、栄養診断に基づいた施肥の実施及び適期収穫の指導が行われている。</p>
千葉	<p>・10月15日現在の作柄は、全もみ数は、5月上旬以降、高温・多照で推移したことから「やや多い」となった。登熟は、7月上旬の低温と日照不足に加え、出穂後の高温や8月中旬以降の低温・日照不足の影響により抑制されたことから「やや不良」が見込まれる。この結果、千葉県の10a 当たり予想収量は539kgで、前年産に比べ19kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別の10a 当たり予想収量は、京葉で524kg(前年産に比べ18kg減少)、九十九里で554kg(同22kg減少)、南房総で520kg(同12kg減少)が見込まれる。なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された千葉県の作況指数は101が見込まれ、作柄表示地帯別の作況指数は、京葉で100、九十九里及び南房総とも101が見込まれる。 (関東農政局 10月30日付)</p> <p><台風18号の影響による農林水産業への被害について(10月9日午後1時現在)> 市原市、銚子市、野田市で被害面積が93.3ha、被害金額は63,280円となっている。 (千葉県 10月9日付)</p> <p>・「ふさおとめ」は、充実度、整粒歩合及び光沢は概ね良い。肌ずれは見られなかった。粒ぞろい及び粒形は良好である。白未熟粒の混入は全体的に少ない。活青米は適度に混入している。胴割粒、被害粒の混入は比較的少ない。着色粒は全体的に散見される。 (精米工 9月3日付)</p>	<p>○土作りの推進と適正な施肥・水管理の徹底</p> <p>○適期収穫と適正な乾燥・調整の徹底等の指導が重点的に行われている。</p>
新潟	<p>・10月15日現在の作柄は、田植期から出穂期まではおおむね天候に恵まれたことから、全もみ数は「平年並み」となり、8月中旬から9月中旬までは、気温・日照時間も平年を下回って経過し、その後、日照は回復したものの低温傾向が続いたこと、台風第15号による強風の影響等から、登熟は「やや不良」と見込まれ、10a 当たり予想収量は527kg(前年産に比べて20kg減少)が見込まれる。 (北陸農政局 10月30日付)</p> <p>(柏崎)水稻の収穫もほぼ終了し、10月1日現在のコシヒカリの1等級比率は81%程度となっている。また、小粒でクズ米が多い傾向。(10月6日付)</p>	<p>○良質・良食味米生産推進のため、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくりによる気象変動に強い稲づくり ・適正生育量の確保と過剰生育の防止 ・適正な施肥、水管理 ・適期刈取りと適正な乾燥・調整

	品名概況等	備考
富山	<p>・10月15日現在の作柄は、田植期から出穂期まではおおむね天候に恵まれたことから、全もみ数は「やや多い」となり、8月中旬以降は気温・日照時間とも平年を下回って経過したため、登熟は「やや不良」と見込まれることから、10a当たり予想収量は559kg(前年産に比べて18kg増加)が見込まれる。 (北陸農政局 10月30日付)</p> <p>・玄米の外観については、肌ずれが少なく、光沢があるものが多い、粒張りもしっかりしており、粒ぞろいも良い、白未熟粒については、地域によるバラつきが少し見られたが、自立口ほどではない。胴割粒の混入は、地域によるバラつきが見られた(最大-最小差:12.1%)が、平均は4.6%と少ない。砕粒の混入も地域によりバラつきがあるが、概ね少ない。発芽粒や芽くされ粒などの被害粒およびカメムシなどによる着色粒はほとんどない。 (精米工 10月13日付)</p>	<p>○土壌診断に基づく土作り</p> <p>○高温登熟を回避するため、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シヒカリ」の適期移植の実施 ・適期・適切な中干しの徹底 ・肥料の適期・適量施肥
石川	<p>・10月15日現在の作柄は、田植期から出穂期まではおおむね天候に恵まれたことから、全もみ数は「平年並み」となり、8月中旬以降は気温・日照時間とも平年を下回って経過したため、登熟は「やや不良」と見込まれることから、10a当たり予想収量は522kg(前年産に比べて14kg増加)が見込まれる。 (北陸農政局 10月30日付)</p>	<p>○良質・良食味生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩効性肥料の普及 ・過繁茂を回避するため基肥量の見直し ・適正差数の確保
福井	<p>・10月15日現在の作柄は、田植期から出穂期まではおおむね天候に恵まれたことから、全もみ数は「やや多い」となったものの、8月中旬以降は気温・日照時間とも平年を下回って経過したため、登熟は「やや不良」と見込まれることから、10a当たり予想収量は「平年並み」の518kg(前年産に比べて8kg増加)が見込まれる。 (北陸農政局 10月30日付)</p>	<p>○土づくりと適切な水管理の徹底</p> <p>○高温登熟回避による品質向上を図るため、適期移植等の指導が行われている。</p>
長野	<p>・10月15日現在の作柄は、全もみ数は、田植期以降、高温・多照で経過したことから穂数はやや多くなったものの、1種当たりもみ数が幼穂形成期の日照不足等によりやや少なくなったことから「平年並み」となった。登熟は、8月中旬以降の低温・日照不足の影響により抑制されたことから「やや不良」が見込まれる。</p> <p>この結果、長野県の10a当たり予想収量は604kgで、前年産に比べて7kgの増加が見込まれる。また、作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は、東信で623kg(前年産に比べて17kg増加)、南信で622kg(同23kg増加)、中信で610kg(同6kg増加)、北信で551kg(同24kg減少)が見込まれる。なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された長野県の作況指数は97が見込まれ、作柄表示地帯別の作況指数は、東信で97、南信で99、中信及び北信ともに96が見込まれる。 (関東農政局 10月30日付)</p>	<p>○食味向上に向けた適量施肥</p> <p>○高温登熟障害(胴割米、白未熟米)防止のため適切な水管理</p> <p>○コスト削減のための疎植栽培等の指導が行われている。</p>
滋賀	<p>・10月15日現在の作柄は、刈取最盛期は、平年より1日遅い9月18日となった。全もみ数は、穂数が「やや多い」ことから相反作用により1種当たりもみ数が「平年並み」となったことから「平年並み」となった。登熟は、出穂期以降8月前半までは高温・多照で経過し、後半から9月上旬にかけて気温・日照時間ともに平年を下回ったものの、その後はおおむね平年並みに経過していることから「平年並み」が見込まれる。</p> <p>これらのことから、滋賀県の10a当たり予想収量は518kgで、前年産に比べて16kgの増加が見込まれる。作柄表示地帯別には、湖南は526kg(前年産に比べて16kg増加)、湖北は502kg(同17kg増加)が見込まれる。 (近畿農政局 10月30日付)</p>	<p>○良質米生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期の過繁茂抑制 ・もみ数過多の抑制 ・登熟期の高温回避・栄養確保
兵庫	<p>・10月15日現在の作柄は、穂数は、田植後の気象経過により県北では多く、淡路で少なくなったものの、兵庫県全体では平年並みとなった。1種当たりもみ数は、幼穂形成期の気温・日照時間が平年を下回って経過した県南では、やや少なく、高温・多照で経過した淡路ではやや多くなったものの、全体では平年並みとなった。全もみ数は、穂数が平年並みで、1種当たりもみ数も平年並みとなったことから、平年並みとなった。登熟は、早生品種では出穂後の日照不足の影響で不良傾向となったが、中生・晩生品種では9月中旬以降の好天により良好となったことから、全体では平年並みが見込まれる。</p> <p>このことから、兵庫県の10a当たり予想収量は、501kg(やや不良であった前年産に比べて14kg増加)が見込まれる。作柄表示地帯別では、県南が502kg(同17kg増加)、県北が505kg(同9kg増加)、淡路は493kg(同1kg増加)が見込まれる。 (近畿農政局 10月30日付)</p>	<p>○良質米生産に向け、品種別に以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適期移植 ・適期・適量施肥
岡山	<p>・10月15日現在の作柄は、穂数は、早生品種の多い中北部では5月の好天で葦数が多かったため「多い」となった。一方、中生・晩生品種の多い南部では6月から7月中旬の低温・日照不足により葦数がやや少なくなったため、「やや少ない」となった。この結果、県全体では「平年並み」となった。1種当たりもみ数は、中北部では幼穂形成期の6月下旬から7月中旬が低温・日照不足となったことから、「やや少ない」となった。一方、南部では幼穂形成期である8月上旬が天候に恵まれたことから「平年並み」となった。この結果、県全体では「やや少ない」となった。</p> <p>これらのことから、全もみ数は中北部では「平年並み」、南部及び県全体では「やや少ない」となった。登熟は、中北部では8月中旬以降の低温・日照不足の影響により「やや不良」、南部では9月中旬以降好天が続いていることから「やや良い」が見込まれ、県全体では「平年並み」が見込まれる。</p> <p>この結果、岡山県の10a当たり予想収量は平年を下回る512kgと見込まれる。作柄表示地帯別にみると、南部は523kg、中北部は495kgと見込まれる。作況指数(1.80mm)は県計及び南部が「98」、中北部が「97」と見込まれる。 (中国四国農政局 10月30日付)</p>	<p>○生育状況に応じた水管理</p> <p>○高温下での登熟回避のための適期移植</p> <p>○地域や品種に適合した肥料選定等の指導が行われている。</p>
広島	<p>・10月15日現在の作柄は、早生品種の幼穂形成期にあたる6月下旬から7月上旬が低温で日照時間が少なかったことから、1種当たりもみ数が平年に比べてやや少なくなったことにより、全もみ数はやや少なくなった。登熟は、8月上旬が高温・多照となったものの、8月中旬から9月上旬は曇雨天が続き、日照時間及び最高気温が平年を下回ったため平年並みが見込まれる。</p> <p>地帯別にみると、南部は、全もみ数の多少が「平年並み」であったものの、南部の品種構成で割合の高い中生種の登熟期にあたる8月中旬から9月下旬の日照時間が平年の約8割にとどまったことが粒の肥大に影響し、登熟は「やや不良」と見込まれる。北部は、登熟が「平年並み」と見込まれるものの、1㎡当たり全もみ数が「やや少ない」となった。</p> <p>この結果、南部の10a当たり予想収量は508kg(作況指数96)、北部は507kg(作況指数97)が見込まれる。 (中国四国農政局 10月30日付)</p>	<p>○肥培管理、水管理等基本管理技術の高位標準化により外観品質向上を目指している。</p> <p>○需要動向を踏まえた売れる米作りに対応し、実需者ニーズに対応する品種の作付けによる産地の育成を図っている。</p>

	品質概況等	備考
山口	<p>・10月15日現在の作柄は、1㎡当たり穂数は、早生種では、5月の気温が平年に比べて高めで経過し、日照時間も平年を上回ったため多くなった。中生・晩生種では、6月以降7月下旬まで日照時間が平年を下回ったためやや少なくなったが、全体では「やや多い」となった。1種当たりもみ数は、早生種では6月以降7月下旬までの日照不足の間に幼穂形成期を迎えたため、もみ数が抑制されたことにより平年に比べ少なくなった。中生・晩生種は、1㎡当たり穂数が平年に比べやや少なくなったことから、補償作用により1種当たりもみ数はやや多くなったが、全体では「やや少ない」となった。この結果、1㎡当たり全もみ数は、「平年並み」となった。</p> <p>登熟は、「コシヒカリ」等の早生種では、8月中旬から9月上旬の低温・日照不足によりやや不良が見込まれる。9月中旬以降、日照時間が平年を上回ったことから、「まめむすめ」等の登熟時期が遅い早生種や、中生・晩生種の登熟は平年並みが見込まれるものの、いもち病の進行により登熟に影響がみられることから、全体では「やや不良」が見込まれる。</p> <p>この結果、10月15日現在の10a当たり予想収量は491kgが見込まれます。また、作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は、東部で473kg、西部で498kg、長北で492kgが見込まれる。</p> <p>(中国四国農政局 10月30日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○品種特性に応じた栽植密度の確保 ○中干し等水管理の徹底 ○気象条件にあった施肥管理等の指導が行われている
愛媛	<p>・10月15日現在の作柄は、やや不良が見込まれる。これは1㎡当たり全もみ数が平年並みに確保された上、9月16日以降は日照傾向ではあったものの、気温は低温傾向で推移し、10月に入ると平年より早く平均気温が20℃を下回る日が続き、最低気温も平年より2～3℃低く推移したこと、更にはいもち病が発生し、特に遅植えのヒノヒカリ・にこまるの登熟が阻害されたことによるものです。これらのことから、10a当たり予想収量は488kg(平年に比べて10kgの減少)が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、東予は481kg(同10kgの減少)、中予は528kg(同6kgの減少)、南予は461kg(同12kgの減少)が見込まれる。</p> <p>なお、作況指数については愛媛県全体で98のやや不良、作柄表示地帯別には東予は98のやや不良、中予は99の平年並み、南予は97のやや不良が見込まれる。</p> <p>(中国四国農政局 10月30日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○品質向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ・疎植栽培 ・移植時期の後進化 ・適正な水管理
高知	<p>＜早期栽培の10月15日現在の作柄＞ 全もみ数は、穂数が1種当たりもみ数とも平年並みであったことから、平年並みとなった。登熟は、日照不足や穂数の発生などによりやや不良となった。被害は、日照不足による登熟への影響やいもち病の発生などから、総じてやや多くなった。</p> <p>これらの結果、10a当たり収量は462kg、作況指数は「96」のやや不良となった。</p> <p>地帯別の作況指数は、中東部は「96」のやや不良だったが、西部は、全もみ数がやや少なくなったことに加え、日照不足はいもち病の被害が多くなったことなどから、「94」の不良となった。</p> <p>＜普通栽培の10月15日現在の作柄＞ 全もみ数は、穂数がやや少なくなったものの、幼穂形成期から出穂期の天候に恵まれ1種当たりもみ数が多くなったことから、多くなった。登熟は、全もみ数が多いことに加え、登熟前半の日照不足や穂の発生が多かったことから、不稔もみやくすみの発生が多く不良が見込まれる。被害は、日照不足による登熟への影響やいもち病の発生などから、総じてやや多いと見込まれる。これらの結果、10a当たり予想収量は420kg、作況指数は「97」のやや不良が見込まれる。地帯別の作況指数は、中東部「98」、西部「97」で共にやや不良が見込まれる。</p> <p>(中国四国農政局 10月30日付)</p> <p>・「コシヒカリ」は、玄米の外観は、地域により差はあるものの、全体的に光沢は良好であるが、粒ぞろいはやや不揃い、粒形はやや細く、やや小ぶりである。白未熟粒の混入は全体的に少ない。出回り初期のものは、青未熟粒混入はやや多かったが、8月下旬のものは、青未熟粒混入は少なく、その他未熟粒の混入はやや多い。その他未熟粒の混入の程度は地域による差がある。胴割粒及び被害粒の混入は比較的少ないが地域により差がある。死米の混入はやや多く、これも地域による差がある。着色粒は全体的に散見される程度である。</p> <p>(精米工 8月31日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○品質向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正な肥培管理 ・適期除草 ・収穫前の水管理の徹底(早期栽培)、移植時期の後進化(普通栽培)
福岡	<p>・10月15日現在の作柄は、穂数が少なく、1種当たりもみ数がやや多くなったことから、全もみ数はやや少なくなった。登熟は、9月上旬まで降水量が多く寡少であったものの9月中旬以降の気象が良好に経過していることから、平年並みが見込まれる。このことから10a当たり予想収量は480kgで作柄の悪かった前年産に比べ2kgの増加が見込まれる。</p> <p>被害は、気象被害で田植え期から分けつ期の日照不足による分けつの抑制や登熟期の日照不足に加え8月25日に襲来した台風第15号の暴風雨によるもみずれがみられる。病害は、山間部を中心に平野部の一部でも穂いもち病の発生がみられ平年に比べ多くなっている。虫害は、スクミリンゴガイの被害がみられるものの、ウンカやコブノメイガの発生が少ないことから平年に比べ少なくなっている。</p> <p>(九州農政局 10月30日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○品質向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ・適期移植 ・中干し・間断灌水・落水時期の適正化 ・土壌診断・施肥基準に基づく適正な施肥
熊本	<p>＜県北地帯の10月15日現在の作柄＞ 全もみ数は、穂数が「少ない」となり、その補償作用で1種当たりもみ数が「やや多い」となったことから「やや少ない」となった。登熟は、低温・日照不足による生育の遅れや台風第15号のもみずれ・葉ずれ等の影響があるものの、出穂後はおおむね天候に恵まれていたことから「平年並み」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を下回る519kg(作柄の悪かった前年産に比べ9kg増加)が見込まれる。</p> <p>＜阿蘇地帯の10月15日現在の作柄＞ 全もみ数は、穂数が「平年並み」となり、1種当たりもみ数が「やや多い」となったことから「やや多い」となった。登熟は、5月早植えのコシヒカリについては、8月中旬～9月上旬の日照不足による粒の肥大不足、その他の品種(あまげしき、ヒノヒカリ)については、台風第15号によるもみずれ等と合わせて、9月上旬までの日照不足、穂いもちの拡大により「不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を下回る486kg(同9kg減少)が見込まれる。</p> <p>＜県南地帯の10月15日現在の作柄＞ 全もみ数は、穂数が「少ない」となり、その補償作用で1種当たりもみ数が「多い」となったことから「平年並み」となった。登熟は、台風第15号の通過に伴い、早植えのキヌヒカリの倒伏及び普通期のヒノヒカリ等で、もみずれ等の発生により不稔粒が増加したことと合わせて、8月中旬～9月上旬の日照不足、穂いもちの拡大により「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を下回る488kg(同12kg減少)が見込まれる。</p> <p>＜天草地帯の10月15日現在の作柄＞ 全もみ数は、穂数が「少ない」となり、その補償作用で1種当たりもみ数が「やや多い」となったことから「やや少ない」となった。登熟は、早期水稲が平年並みとなったこと、普通期は台風第15号のもみずれ・葉ずれ等の影響があるものの、出穂後はおおむね天候に恵まれていることから全体では「平年並み」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を下回る420kg(同9kg減少)が見込まれる。</p> <p>(九州農政局 10月30日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○品質向上に向け、以下の指導が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ・適期移植 ・高温時の間断灌水 ・カメシシの防除 ・土壌改良資材の投入

	品質概況等	備考
宮 崎	<p><早期栽培の10月15日現在の作柄> <u>全もみ数は、日照不足等の影響から穂数が少なく、1穂当たりもみ数もやや少なくなったことから、平年に比べて少なくなった。登熟は、6月から7月の日照不足や低温、多雨等の影響から不良となった。被害は、分けつ期から登熟期にかけての日照不足や低温などの気象被害、また、穂いもち病等の発生がみられ、総じて多い発生となった。以上のことから、10a当たり収量は411kg（前年産に比べ77kgの減少）となった。</u></p> <p><普通栽培の10月15日現在の作柄> <u>全もみ数は、穂数は少なくなりましたが、1穂当たりもみ数が多くなったことから、平年並みとなった。登熟は、9月の日照時間が平年を上回り、気温日較差など気象条件に恵れましたが、1穂当たりもみ数も多く、出穂期の多雨や日照不足等の影響から、平年に比べてやや不良被害は、総じてやや多いと見込まれる。気象被害は、低温や日照不足による生育や登熟への影響がみられる。病害は、いもち病が県内全域で見受けられ、被害程度はやや多くなっています。虫害は、トビイロウンカや斑点米カメムシ類等の被害は平年に比べて少なくなりました。以上のことから、10a当たり予想収量は501kg（前年産に比べ16kg増加）が見込まれる。</u></p> <p>（九州農政局 10月30日付）</p> <p>・「コシヒカリ」は、玄米の外観は、地域により差はあるものの、光沢、粒ぞろい、粒形は平年並みである。白未熟粒の混入は全体的に少ない。青未熟粒及びその他未熟粒の混入は、地域による差があり、やや多い地域もある。胴割粒、被害粒、着色粒の混入は、全体的に散見される程度で比較的少ない。死米の混入はやや多く、これも地域による差がある。 （精米工 8月31日付）</p>	<p>○適正な栽植密度の確保 ○移植時期の後進化 ○土壌診断に基づく適正施肥等の指導が行われている。</p>
鹿 児 島	<p><早期栽培の10月15日現在の作柄> <u>全もみ数は、日照不足や低温などにより穂数が平年に比べて少なく、1穂当たりもみ数も平年並みとなったことから少なくなった。登熟は、出穂前から刈取最盛期直前まで日照不足で経過した影響から粒の充実が悪く、不良となった。被害は、生育期が日照不足で経過したことから、気象被害の影響が大きく、病虫害の発生もやや多かったことから、全体としては平年に比べて多くなった。この結果、10月15日現在の10a当たり予想収量は396kgで作柄の良かった前年産に比べて59kgの減少が見込まれ、農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の10a当たり予想収量は383kg（作況指数88）となった。</u></p> <p><普通栽培の10月15日現在の作柄> <u>全もみ数は、1穂当たりもみ数が多くなったものの、穂数が少ないことから平年に比べてやや少なくなった。登熟（実入り）は、日照不足や台風等による強風の影響等も懸念されましたが、9月中旬以降の日照時間と気温日較差が平年を上回って推移したことで、全もみ数がやや少ないことによる補償作用が強く働くことが予想されることからやや良と見込んでいる。被害は、田植期～分けつ期の日照不足や低温気味に経過した影響が大きく、分けつが不足して穂数が少なく、いもち病等の病虫害も平年並みと見込まれることから、全体的には平年に比べてやや多くなっている。こうしたことから、10a当たり予想収量は476kgで作柄の悪かった前年産に比べると13kgの増加と予想され、農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の10a当たり予想収量は463kg（作況指数96）が見込まれる。</u></p> <p>（九州農政局 10月30日付）</p>	<p>○高品質米の生産に向け、以下の指導が行われている。 ・適正な栽植密度の確保、適期移植 ・適正な施肥、水管理</p>

注1：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。

注2：（精米工）とあるものは、一般社団法人日本精米工業会が提供している「米質概況情報」から抜粋。但し「米質概況情報」は一般社団法人日本精米工業会が正会員精米工場から得たサンプル（玄米）を測定したものであり、母集団として産地の評価を決めるものではない。

注3：更新箇所については下線で表した。

参考資料

平成27年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)(農林水産省、農林水産省農政局)、
平成26年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)(農林水産省)、
平成27年産米の農産物検査結果(速報値/平成27年9月30日現在)(農林水産省)、
平成26年産米の農産物検査結果(速報値/平成26年9月30日現在)(農林水産省)、
平成27年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、
平成26年産米の都道府県別の生産数量目標(農林水産省)、
都道府県別の平成27年産水稻の生産事情(農林水産省)、
「平成27年度病害虫発生予報第7号」の発表について(農林水産省)、
玄米品質概況(平成27年産)(8/31、9/3、10/13)(一般社団法人日本精米工業会)

農作物の生育状況 10月15日現在(北海道 10月18日)、農作物生育状況 10月15日現在(北海道空知総合振興局 10月18日)、
農作物の生育状況 10月15日現在(北海道石狩振興局 10月18日)、農作物の生育状況 10月15日現在(北海道後志総合振興局 10月18日)、
農作物の生育状況 10月15日現在(北海道胆振総合振興局 10月18日)、農作物の生育状況 10月15日現在(北海道日高振興局 10月18日)、
農作物の生育状況 10月15日現在(北海道渡島総合振興局 10月18日)、農作物の生育状況 10月15日現在(北海道檜山振興局 10月18日)、
農作物の生育状況 10月15日現在(北海道上川総合振興局 10月18日)、農作物生育状況調査の概要 10月15日現在(北海道留萌振興局 10月18日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 10月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 10月18日)、
10月20日現在稲刈進捗状況(青森県 10月21日)、
水稻の刈取状況(10月15日現在概況速報)(岩手県 中央農業改良普及センター 10月19日)、
平成27年産水稻の刈取状況について(10月15日現在)(宮城県農林水産部 10月16日)、
平成27年9月関東・東北豪雨による被害状況等(第14報)(10月16日正午現在)(宮城県 10月16日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 10月23日)、
主要な農作物の生育情報 平成27年度第7号(福島県 10月7日)、
平成27年9月関東・東北豪雨による被害状況について(第6報)(10月15日現在)(茨城県 10月16日)、
平成27年9月9日の台風18号による農作物及び農業施設の被害状況について(概況)(栃木県 9月18日)、
台風18号の影響による農林水産業への被害について(第5報)(10月9日午後1時現在)(千葉県 10月9日)、
稲作管理情報 12(柏崎農業普及指導センター 10月6日)、